

第5学年2組 社会科学習指導案

1 単元名 食料生産を支える人々 ～これからの食料生産～

2 単元目標

- 農業や水産業がさかんな地域の様子を具体的に調べ、食料生産に携わる人々が生産を高めるため工夫・努力をしていることや、日本の農業・水産業の現状と課題をとらえることができるようにする。
- 食料生産に関する写真や地図、統計などの資料を収集・選択し、国民生活を支える食料生産の意味や、自然環境との深い関わりについて多面的に考えることができるようにする。

関心・意欲・態度	思考・判断	表現・技能	知識・理解
・日本の食料生産について関心をもって意欲的に調べ、食料を生産する仕事の大切さを指摘しようとしている。	・食料生産に携わる人々の生産を高める工夫・努力や、食料生産や自然環境との関わりについて考えることができる。	・食料生産に関する写真や地図、統計などの資料を目的に合わせて収集・選択し、的確に読み取ることができる。	・農業や水産業がさかんな地域の様子や、日本の農業・水産業の現状と課題がわかる。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

(1) 子どもの実態

本学級の児童は明るく元気な子が多い。休み時間は男女関係なく、遊んでいる姿も見られ、全体的に暖かい雰囲気である。友達同士の関わりもよく、困っている子がいるとさっと手を貸し助け合う姿もよく見られる。その反面、仲良し同士のふざけ合いから起きる喧嘩も少なくない。その多くは、相手の気持ちを考えず行動をしてしまったり、言葉がつい強くなってしまうたり、言葉が足りなかったりするものである。相手の気持ちを考えて行動すること、状況を判断して行動することはこれからの課題である。

学習においては、受け身な児童が多い。普段は「おしゃべり」が大好きでにぎやかな様子に反し、とても静かである。どんな簡単な質問に対しても反応が少なく、ごく一部の限られた児童の発言だけで授業が進んでしまっていた。授業の中に必ず自分の出番を作ること意識させ、まず人の話に反応させることから始めた。「なるほど」「たしかに」「いいです」など、自分が聞いて思ったことをつぶやくようにさせている。次に、一人ひとりが発表できる場を多く取り入れるようにした。グループでの話し合い活動や、全員が答えられるような発問を多くし、みんなの前で発表することになれさせ、自分の考えを人に伝えるよさを味わえるようにしているところである。

児童たちは、食べることに関する興味・関心が非常に高く、本単元に入ってからまずは自分たちで食べられる「お米を作りたい」という思いを全員が持っていた。そこで、本単元に入ってからではあるが、実態把握のために食料生産に関するアンケートを行った。

① 食べることは好きですか

大好き 16人 好き 13人 ふつう 6人 あまり好きではない 1人 嫌い 6人

② 普段、自分が食べているものについて心配なことや気になることはありますか

すごくある 1人 ある 14人 あまりない 14人 ない 7人

③ 食料を作っている人、関わっている人のことについて考えて食事をしていますか。

常に考えている 5人 時々考えている 22人 考えていない 9人

食べることへの興味・関心は高いが、普段食べている食料へ対する興味・関心が低いことが明らかとなった。その中でも普段食べている食料に対し興味を持っている児童は、「中国産の冷凍餃子」や「賞味期限偽造」な

どの安全性に関することに不安を感じている児童が多かった。

今後学習を進めていくにあたり、社会科の学習スタイルについてのアンケートもとり実態把握に努めた。その結果、自ら問題を考え追究したい児童が多く、教師に教わるより自分で調べる形の学習を好むことがわかった。また、調べたことをまとめる際、新聞等にまとめることに抵抗はないが、それらを全体場で発表することを好む児童は少ないことも明らかとなった。

(2) 単元と指導

本単元は、我が国の第1次産業について、様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、その生産分布や土地利用の特色、従事している人々の工夫や努力を理解し、食料生産の発展に関心を持つようにするものである。その中で、主食である「米づくり」と重要なタンパク源である「水産業」について学習していくようになっている。しかし、実際の本学級の子ども達にとっては、自分の家の生計を農業や漁業に頼っている児童は非常に少なく、農業や漁業に携わる人々の立場に立たせるのは容易ではない。そこで、実感を伴い理解し自分の問題として考えていけるように、実際に体験をしながら学習していけるようにした。「米づくり」では、多くの児童が「自分たちでお米を作りたい」「おいしいお米を作って食べたい」といった課題を持っていた為、実際に米作りをしながら起きる問題や疑問を学習課題として取り上げていった。現代は、量を問題にする時代から質を問う時代へと大きく移り変わり、今や、うまさ、健康面、安全性などが消費者の大きな関心となっている。米においてもそれは同様であり消費者が買う基準は、味、銘柄、産地である。子どもたちの中でもまずは「おいしさ」〔味〕が最も興味・関心が高い課題であった。そこで、自分達で出した課題を解くきっかけとして、まずは、米袋を集め、その情報から学習を展開していくことにした。

子どもたちの実態にも記したように、自分達で調べ追究したいという願いを持っているものの、実際は、調べるための情報を手に入れるだけの技術がまだ十分ではなく、時間もかかる。今回は最初の単元ということもあり、自分の課題をいろいろなもの(本、インターネット)で調べる学習と、共通な課題を教師が与えた資料や教科書から調べてまとめたり、考えたりする学習を教師側が振り分けて行っていた。あまり強引になり過ぎないように気をつけながら行ったつもりだが、実際には教師の思いに近づけようとしてしまった部分があったのは反省点である。水産業は、課題を元に調べてまとめる形をとりつつも、時間の関係上、教師が与えた資料や教科書から問題解決をさせてく。農業での反省点を踏まえ、小單元どうしのつながりが強引にならないように、子ども達のつぶやきを大切に、うまく拾い上げながら次の課題へつなげていけるようにしたい。さらに、小単元の最後には、必ず現状を元に自分の考えをもつ時間を取り、それが最後の食料生産についての話し合いの中で生かされるようにしていきたい。

話し合いの仕方では、自分の考えを伝えること・友達の意見に反応することを繰り返し指導しているところである。自分の考えが持ていても自信がなく、じっと時間がたつのを待っている子が多く、話し合いの場では決められた子の意見に偏ってしまっている。あまり無理を言わず、まずは少人数の挙手から少しずつ考えを広げ、友達の意見から自分の考えに自信を持ち、みんなに伝えられるように進めているところである。また、少人数グループでの話し合いを経て全体場での話し合いの形で進め、より多くの児童が関わり合いながら活動を進めていけるようにしたい。

子ども達にとって食は毎日の生活に密着しているものでありながらも、食べ物があふれ、食に関する関心が薄くなっているのが現状である。一方、一部の子ども達ではあるが、中国の輸入問題や食品の偽造について子ども達なりに断片的な知識を持ち、不安視している様子が見られる。食について考えるきっかけを与え、現状を知り、これからの食料生産について考えさせることによって、最終的には日本全体の課題などに目を向けられるような子に育ってくれることを願っている。

4 単元指導計画(全24時間)

	学習活動	評価の観点・評価方法
--	------	------------

問題をつくる	オリエンテーション① 1、農業がさかんな地域をたずねて⑬ (1) 稲作にはげむ人々 ○「お米」から連想するものを出し合い、稲作への興味関心を高める。① ○米の種類・生産地・生産量を調べ「お米マップ」にまとめる。②	【関心・意欲・態度】 ・観察 ・米袋集めの様子など 【技能・表現】 ・ノート
	学習問題 米作り農家は、おいしいお米を作るためにどんな工夫や努力をしているのだろう。	
調べ・体験する	○お米の作り方を調べる。① ○実際に作ってみる。① ・バケツ稲 (観察は理科・総合でも行う) ○農家の人はおいしいお米を作るためにどんな工夫と努力をしているか調べる。③ ・水管理 ・自然条件・肥料 ・土地 ・品質改良	【技能・表現】 ・ノート 【知識・理解】 ・バケツ稲作り 【思考・判断】 ・発言
考える	○農家の人の悩みを考える。① ○これからの米づくりの在り方や自分たちの生活との関わりについて話し合う。①	【思考・判断】 ・発言
調べる	(2) 自然を生かした農業 ○米以外の農産物について調べる。②	【技能・表現】 ・産地調べカード
問題をつくる	2、水産業がさかんな地域をたずねて⑦ ○普段食べている魚介類には、どんな種類があり、主にどこでとられているのか話し合う。①	【関心・意欲・態度】 ・発言 ・ノート
	学習課題 漁業に従事している人たちは、たくさんとる〔生産を高める〕ためにどんな工夫や努力をしているのだろう。	
調べ・表す	(1) とる漁業にはげむ人々 ○漁業がさかんな地域を取り上げて自然との関係を考える。① ○沿岸・沖合・遠洋漁業について調べ、水産業に従事している人たちの努力を考える。① 〔それぞれの漁業の特徴や問題点、漁業に従事する人たちの工夫や努力〕	【技能・表現】 ・地図・グラフなどの学習シート 【思考・判断】 ・発言 【関心・意欲・態度】 ・学習シート
考える	○新鮮なまま輸送する工夫を調べる。② 〔輸送の工夫や交通網や運輸の働き〕	【技能・表現】 ・学習シート 【思考・判断】 ・発言 ・ノート
調べ・表す	(2) 育てる漁業にはげむ人々 ○生産を安定させるためにどんな努力をしているのか調べる。① 〔養殖漁業や栽培漁業〕〔漁業にかかわる様々な問題〕 ○学習してきたことを、ミニ新聞にまとめる。①	【関心・意欲・態度】 ・新聞 【思考・判断】 ・新聞 【技能・表現】 ・新聞
問題をつくる	3、これからの食料生産③ ○日本の食料問題について考える①〔本時〕	【関心・意欲・態度】 ・観察 ・発言
	学習課題 確実・安全に食料を確保するために、どんなことをするとよいのだろう。	
調べる	○・自給率や世界の食料の状況を調べ、グラフにまとめる。① 〔様々な食料の自給率を図表にして、自給率を比べてみよる。〕 〔世界の食料生産の様子をしらべる〕	【技能・表現】 ・学習シート 【思考・判断】 ・学習シート
考える	○これからの食料生産について話し合い、自分ができることを考える①	【思考・判断】 ・発言 ・ノート

5 本時について

(1) 本時目標

- ・ 日本が食料の多くを外国から輸入に頼っている現状や、今後の食料生産の問題点に気づく。
- ・ 食料の多くを輸入に頼っている現状と、これまで学習してきたことを踏まえ、学習課題を立てる。

(2) 本時展開

学習活動	指導上の留意点
1、今の食事と輸入をなくした食事を比べ、気がついたことを発表する。 ・ 食べられる量が減る。 ・ お米と野菜は減っていないけど、みそ汁は空になっている。 ・ 肉や魚も少ないね。 2、資料から輸入に頼っている日本の現状を読み取る。 ・ 日本はたくさんの食品を輸入している。 ・ 大豆はほとんどが輸入だ。 ・ お米や野菜は比較的自給率が高い。 ・ 日本はほかの国に比べて自給率が低い。 3、日本の食料生産の問題を考える。 ・ 輸入をなくすと食べるものが減ってしまう。 ・ 日本は輸入に頼りすぎだ。 ・ 農業・漁業をする人を増やす。 ・ 輸入品は心配だ。 ・ 安全でおいしいものなら輸入に頼ってもいいと思う。 ・ 輸入品は安いからこのまま輸入は続けた方がいい。 4、課題の焦点化	・ 輸入問題が自分たちの身近な問題であることが実感できる資料を提示する。 ・ 普段食べている食料品の多くが輸入に頼っている現状が分かる資料の掲示をする。 ・ 自給率について確認する。 ・ 少人数での話し合いの時間をとった後、全体での話し合いの時間にする。 ・ 話し合いの中で、対立するような問題が出た場合は焦点を絞って話し合うようにする。 ◇【関心・意欲・態度】 友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、話し合いに参加しようとしているか。 ◇【思考・判断】 輸入に頼っている日本の食料生産の問題を考えることができる。 ・ 出された問題の中から、クラス全体で取り組んでいく課題を考える。
日本の食料生産はこのまま輸入に頼っていてよいのだろうか。 輸入とわたしたちの食生活について話し合い、自分の考えをまとめよう。	
5、次時の予告	・ 焦点化した課題をクラスで〔自分たちで〕解決していくことを伝える。

(3) 本時の視点

- 日本の食料の多くを外国から輸入に頼っている現状や今後の食料生産の問題点に気づいたか。
- 食料の多くが輸入に頼っている現状と、これまで学習してきたことを踏まえ、自分なりの課題を立てられたか。

第5学年2組 社会科当日案

指導者 野村 千加

1. 前時の児童の様子

水産業の最終「これからの水産業」での話し合いにおいて、このままでは魚が食べられなくなってしまうかもしれないといった問題がでてきた。そこで、子ども達は輸入に目を向けた。日本の水揚げ量が減っているのに反し、輸入量が増えている現状をグラフから読みとり、日本の水産業は多くを輸入に頼っていることや頼らないと魚が食べられなくなってしまうかもしれないことを考えていた。しかし、輸入に対する反発意識が高く、「輸入は危険だ」「輸入品は毒が入っているかもしれない」「輸入品は安全かどうかかわからない」など輸入に対する不信感を持っている児童が多かった。前時までの学習を経て、子ども達は、日本の食料生産の現状を十分学習してきている。働く人の問題・収穫量の問題・お金の問題・環境問題・輸入問題、いろいろな面から問題意識を持っている。それらのことから、本時では、出来るだけ資料は提示せず、前時までの学習から日本の食料生産の問題について考えさせていきたい。

2. 本時について

(1) 本時目標

- これまで学習してきたことを踏まえ、日本の食料生産が抱える問題点から学習課題を立てることができる。

(2) 本時展開

学習活動	指導上の留意点
1、前時までに学習してきたことから、食料生産の悩みを振り返る。 - 働く人が減っている。 - 働く人の年齢層が高くなっている。 - 収穫量が減っている。 - 輸入量が増えている。 - お金がかかる。(ガソリン代) 2、日本の食料生産の問題について前時までの学習をもとに考える。 - 地球温暖化や環境問題により収穫量がへっている。 - 日本は輸入に頼りすぎている。 - 輸入品が多くなると安全ではなくなってしまう。 - 働く人が高齢化していること。 - 輸入品は安いからよく売れて、日本産があまってしまう。 3、これからみんなで話し合っていくべき食料生産の問題はなにか、話し合う。 - 収穫量が減り、輸入量が増えてきているので、このままでは全部輸入品になってしまい、食料が安全ではなくなってしまう。 - 輸入品は心配だけど、全部ストップしたらどうになってしまうのか心配。 - 自給率が減っているのは輸入が増えたからだ。 - 安全かどうかかわからない商品を輸入していいのか。 - 温暖化や海の汚れなどの問題で日本での食料の収穫量が減ってきている。 4、課題の焦点化	- 前時までの学習の様子が見えるような掲示の工夫をする。 - 自給率について確認する。 - 自分の考えがしっかり持てるようにノートに書かせる。 - 少人数での話し合いの時間をとった後、全体での話し合いの時間にする。 - 話し合いの中で、対立するような問題が出た場合は焦点を絞って話し合うようにする。 ◇【関心・意欲・態度】 友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、話し合いに参加しようとしているか。 ◇【思考・判断】 いろいろな問題を抱える日本の食料問題から、みんなで話し合うべき課題を考えることができる。 - 出された問題の中から、クラス全体で取り組んでいく課題を考えことができる。
日本の食料生産はこのまま輸入に頼っていてよいのだろうか。 輸入とわたしたちの食生活について話し合い、自分の考えをまとめよう。	
5、次時の予告	焦点化した課題をクラスで〔自分たちで〕解決していくことを伝える。

(3) 本時の視点

- これまで学習してきたことを踏まえ、食料生産の問題が考えられたか。
- 日本の食料生産の現状や今後の食料生産の課題を考えられたか。

6 実践を終えて（成果と課題）

(1) 単元作りについて

実態把握のアンケートをとり、そこから学習展開を考えていった。食べることが好きな児童が多かったため、その思いを大切にしながら、食料生産に携わる人々の工夫や努力などの現状を知り、これからの食糧生産を考えていけるようにした。しかし、食べることが好きでも、食に関心を持っている児童は少なく、食料生産に携わる人々の工夫や努力を理解させるのは容易ではないと考え、実際に「米作り体験」をすることにした。実際に米作りを体験したことがある児童は少なく、ほとんどの児童が今回初めてであったが、「おいしいお米をつくりたい」

「自分で作ったお米を食べたい」と、どの子も一生懸命に稲の世話に取り組んでいた。実際に体験をしたことにより農家の人々の苦労や悩みなど、身を持って感じることができ、その後の「これからの食糧生産」を考える過程で有効的であったと感じた。

また、子どもたちの思いを大切にしながら授業を展開していった。調べ、まとめる過程で出てきた疑問から次の課題を設定していくようにした。その際、教師側の押さえない指導内容と大幅に違わないように子どもたちのつぶやきを大切に、うまく拾い上げるようにした。自分たちから出てきた課題であることから、子どもたちは次の課題へも意欲的に調べ、まとめる活動ができていた。

（２） 研究授業当日の様子

当日は、前時までの確認に時間をとりすぎ、本時の中心である「これからみんなで話し合っていくべき食料生産の問題はなにか」について話し合う時間に十分な時間をとることができなかった。そのため、じっくり問題について考えたり、少人数の友だちと話し合ったりする時間が少なく、全体の場での発言も一部の児童に偏り、ひびき合う姿もあまり見られなかった。また、ひびき合う姿があまり見られなかった原因として、投げかけた発問「食料生産の問題点を考えること」が子どもたちにとって難しすぎたこともある。本時では、問題を挙げる程度にし、その問題を今後追究していく展開をとってもよかった。まずは、身近な問題にせまること、身近な事から調べ、大きな問題へと広めていくなど、児童一人一人が自分の生活に結びつけて考えられる授業展開や発問を考えることが大切であると感じた。